

人間の愚行と神の計画

創世記三〇章――24節

一方、神はラケルを忘れずに心に留めておられた。神は彼女の願いを聞き入れ、その胎を開かれた。彼女は身ごもって男の子を産み、……その子をヨセフと名付け、…… (22～24)

2/

ここにヤコブの二人の妻たちの醜い産児競争、子産み合戦が繰り広げられます。姉レアばかりが子を産むのを妬んだラケルは、「それならこっちは下女で勝負」とばかりに、自分の代わりに召し使いビルハをヤコブに与えます。産むのが止んだレアも、負けじと召し使いジルパを与えます。二人の妻の嫉妬、執念、プライドが両者一步も引かぬすさまじい産児競争をもたらします。これが本当に聖書の物語なのかと疑いたくなるほどですが、人間たちの愛憎、狂気を通して、神の救いの計画は展開していました。妻たちが張り合うことで、イスラエル十二部族が勢揃いし始めるのです。私たちの家族の歴史においても、目を覆いたくなるようなことが行われて来たのではないでしょう。そのような者たちをなおも神の栄光のために用いようとしてくださる神に、ただひれ伏すばかりです。